熊本の学び推進プラン

熊本の未来の創り手となる子供たちの学び

熊本の子供たちが、**「学ぶ意味」**を問いながら、
「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指して

「熊本の学び推進プラン」は、平成３１年４月に「熊本の学び」総合構想会議からの提言を受け、県教育委員会が策定する義務教育段階における学力向上に関する計画です。本リーフレットは、「熊本の学び推進プラン（詳細版：冊子）」の概要をまとめたものです。

各学校においては、本推進プランを御活用いただき、それぞれの学校及び地域の実態に応じた「熊本の学び」の推進をお願いします。

令和元年12月
熊本県教育委員会

「熊本の学び」が目指すもの

～「熊本の学び推進プラン」の概要～

【理　念】

熊本のすべての子供たちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指します。

熊本の未来の創り手となる子供たちに期待する学び【提言】

【提言1】 ふるさと熊本に根ざし、豊かな郷土の創造と自己の向上を目指し、能動的に学び続ける熊本の子供

【提言2】 問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める熊本の子供

【提言3】 自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学ぶ熊本の子供

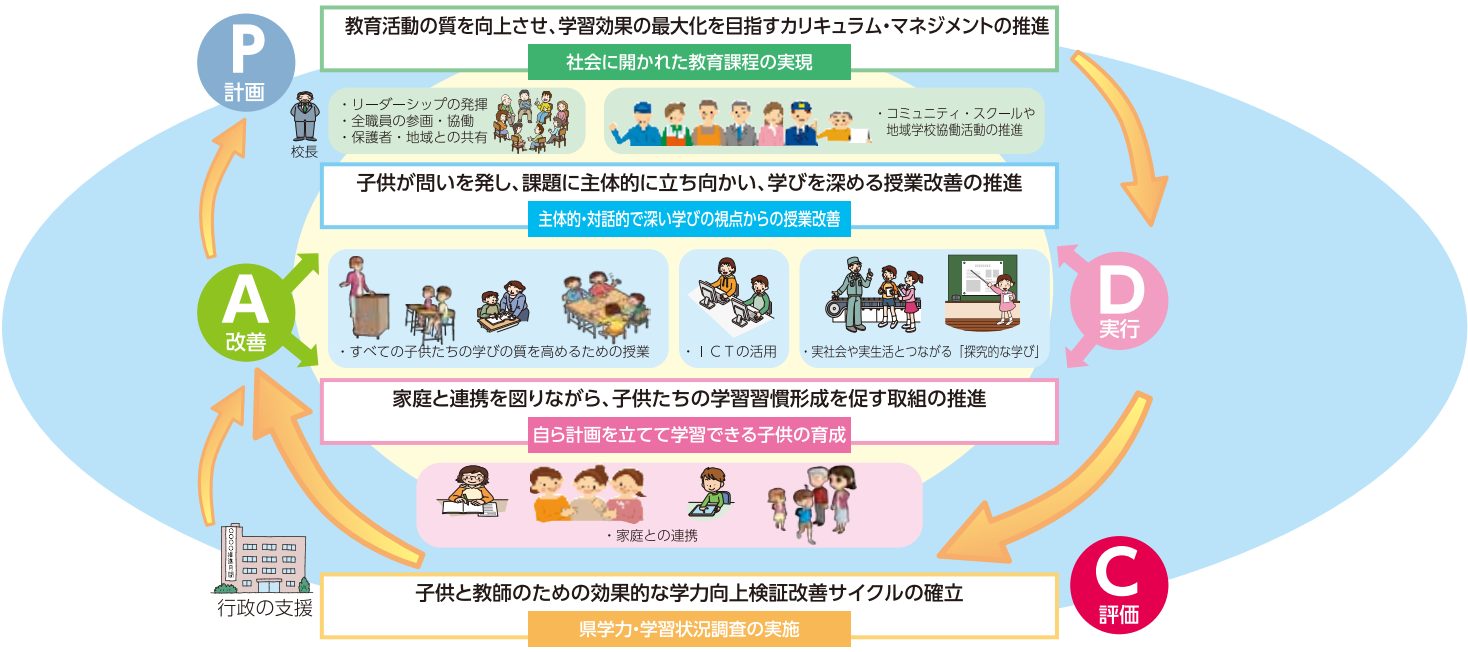
県教育委員会では、熊本の学びの「理念」と「三つの提言」が実現できるよう、「熊本の学び推進プラン」の基本方針を以下の四つに整理し、取組を推進していきます。

四つの基本方針！

方針1	教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進
方針2	子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進
方針3	子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立
方針4	家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進

五者が連携・協働した取組

本推進プランでは、熊本の未来の創り手となる子供たちの学びを、学校だけでなく、家庭、地域に加え、子供と行政を含めた五者が、連携・協働して一体的に取り組んでいくことを推進していきます。



2030年までのチャレンジ！

「非連続的に劇的に変わる」時代の到来を目の前にして、教育や学びの在り方は大きく変化することが予測されます。そこで、県教育委員会では、本推進プランを新たな時代に対応できるよう、次のスケジュールで定期的に見直し等を行うとともに、市町村教育委員会や学校現場の意見等を踏まえ、適宜、協議できるような体制を構築していきます。

2020年4月「熊本の学び」のスタート
2022年　検証委員会にて追記、部分修正等
2024年　検証委員会にて追記、部分修正等
2026年　検証委員会にて追記、部分修正等
2028年　2030年の教育を踏まえ全面改訂準備

熊本の子供たちに、これからの社会を創り、未来を豊かに生きていくための力を！

～教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進～

重点1　すべての教職員が連携・協働し目指す子供たちの姿を思い描きましょう

育成を目指す資質・能力の設定を！

カリキュラム・マネジメントを推進する上でのポイントとして、まずは、管理職だけでなく全教職員がみんなで一つになって進めていくことです。子供たちの課題や地域から求められていることは何か、子供たちに必要な資質・能力は何か、どういう手立てが必要かなどについて考え、話し合って学校のグランドデザインを作成することが大切です。

そのような過程を通して、教職員の一人一人が、学校が目指す教育や資質・能力の育成に向けて日々の授業等の改善・充実に取り組むことができ、学校教育活動全体の質の向上につながることが期待できます。

目標や計画を設定する手順

調査(R)　学校、子供、地域等の実態把握及び分析

↓

計画(P)　学校教育目標等の策定及び教育課程の編成

①五者で共有できる明確な学校教育目標を設定
②重点的に育成を目指す資質・能力を設定
③学校のグランドデザインを作成
④教科等横断的な視点で教育課程を編成

↓

共有(S)　実行(D)　目標達成に向けた教育課程の共有、実施

※グランドデザインの参考例は、推進プラン冊子（P18、19）をご覧ください。

重点2　目指す子供の姿を五者で共有しましょう

分かりやすい表現で共有を！

学校教育目標等の設定ができたら、次はどのように共有するかです。学校が目指す教育や資質・能力を分かりやすく示したグランドデザイン等を通して、家庭、地域、行政そして子供たちと共有することで、連携・協働するチームとしての取組につなげます。

各学校では、五者で共有する時間や場を設定したり、学校内外の行事等の際には、目指す子供像を誰もが分かりやすいフレーズで示したりするなど、準備や体制を工夫しましょう。

【教職員間の共有例】

※学校教育目標や育てたい力についてのワークショップ

【児童生徒との共有例】

※生徒集会での発表

【保護者・地域との共有例】

※通信を使っての発信

重点3　教育活動を定期的に振り返り、更なる充実につなげましょう

改善・充実を図り好循環へ！

教育活動の質を高めるためには、子供たちの学びの姿や教育活動を振り返り、改善・充実を図っていくことが大切です。その際、学校評価をカリキュラム・マネジメントと関連付けて実施することで、改善・充実の好循環を生み出すことができます。

学校評価の観点に教育課程に関する項目を位置付けたり、定期的に実施したりすることで、改善を見通し教育活動の充実につなげていきましょう。

学校評価の流れ

評価(C)　実態に応じた計画的な学校評価

↓

共有(S)　改善(A)　結果の共有（公表）、次への改善

①学校評価の結果の共有(S)
②次に向けての改善(A)

↓

調査(R)　計画(P)へ　改善に向けた調査、改善された計画

熊本の子供たちを、「学びの主体」として育てるために！

～子供が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業改善の推進～

重点1　子供の『わくわく』が連続し、『分かった』『できた』『もっとやってみよう』が生まれる授業を目指しましょう

学習者の視点に立った「熊本の学び」へ！

「熊本の学び」で大切にしていることは、「『子供たちの学びの側』から考える」ということです。子供たちを「学びの主体」として育て、子供たちが学んだことを次の学習や自らの人生、さらには社会のために活用できるという実感を積み上げる営みです。

「熊本の学び」における授業づくりのポイント！

ポイント1　子供の『わくわく』（知的好奇心や興味・関心等）が連続し、『学びを生かそう』とする姿が生まれる単元デザインの工夫をしましょう。

なるほど。この学習ではこんなことができるようになればいいのね。

前に解決できなかった○○を、次は友達と協力して解決してみよう。

単元デザインの手順は・・・

①単元のゴールの姿の設定を！
②単元のゴールに迫る単元を通した学習課題の設定を！
③単元のゴールの姿を実現するための学習活動の設定を！
④単元全体の学習過程の構想を！
⑤子供たちと単元の学習過程やゴールの姿の共有を！

ポイント2　子供の『なぜ』『おそらく』（疑問や予想等）が生まれる導入の工夫をしましょう。

不思議だ！
なぜ○○のようになるのだろう？

どうすればいいのだろう？
知りたい！

導入では・・・

○教師自らが『わくわく』するものを！
○子供の『なぜ』『おそらく』が生まれる言葉かけや教材・教具の提示を！
○答えのない問いや創造するテーマなどを！

ポイント3　子供の『やってみよう』『なるほど』『きっと』（挑戦や納得等）が生まれる展開の工夫をしましょう。

だれの説明と似ていますか。違うところはありますか。

友達の考えを聞いて、気付いたことはありませんか。

どこに着目したり、考えたりすれば解決できますか。

展開では・・・

○各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、学習が深まるような働きかけを！
○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の積極的なコーディネートを！

ポイント4　子供の『分かった』『できた』『もっとやってみよう』（実感や達成感、更なる意欲等）が生まれる終末の工夫をしましょう。

今日の学習で何が分かりましたか。どう生かしますか。

今日の学習では、○○が分かった。

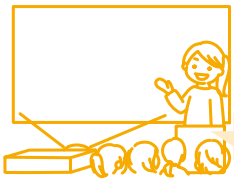
今度は、～さんの方法で考えてみたい。

こんな場合はどうなるのかな。

終末では・・・

○何を学んだかを実感し、深い理解につながるようなまとめの充実を！
○自分の学びを振り返り、「何ができるようになったのか（できなかったのか）」を自覚し、次の学習につながるような振り返りの充実を！

学びの深まりのために　主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用を図りましょう。



よし、今日は○○について調べるぞ。

私は、○○について調べたことを、発表します。

効果的な活用を・・・

①興味・関心を高める導入の工夫に！
②子供一人一人に応じた調べ学習に！
③知識・技能の定着やつまずきに応じた学習に！
④「本物」に触れる体験から関心を高めるために！
⑤コミュニケーションの充実のために！
⑥考えを深めたり、次の学びへつなげたりするために！

※ＩＣＴの効果的な活用例については、推進プラン冊子（Ｐ43～44）をご覧ください。

重点2 「単元のゴールの姿」に向けて、「単元・題材のまとまり」で授業を構想しましょう

「学習構想案」へ！

「主体的・対話的で深い学び」は、１単位時間の授業の中で全てが実現されるのではありません。単元など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し、振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、子供たちが考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考えて、授業を構想していくことが大切です。

そこで、「熊本の学び」では、単元の最後の学習を終えたときの子供の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）を具体的にイメージし、その実現に向けて単元のまとまりで授業を構想することを大切にしています。

「熊本の授業づくりの理念」の下、「確かな指導観に基づき、『子供たちの学びの側』から学習を構想する」

～すべての子供たち一人一人の「学び」は、教師の「指導する（教える）」授業を子供たちの学びの側から「構想する」学習として捉え直す中で、見えてくる～

※「熊本の授業づくりの理念」
教師が基礎的な知識及び技能を徹底して身に付けさせ、子供自らが、課題解決に向けて能動的に学ぶこと

【大切にしていきたい３項目】

①単元終了時の子供の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）
②単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）
③単元で働かせる見方・考え方

県教育委員会では、これまでの一般的な「学習指導案」の項目・内容に、上に示した【大切にしていきたい3項目】を加えたものを「学習構想案」と称し、今後、県内において推進していきます。

どう変わるのか！

これまでの一般的な「学習指導案」	本推進プランで示す「学習構想案」
	１　単元構想
１ 単元名	○単元名
２ 単元について	○単元の目標
(1)単元観	○単元の評価規準
(2)系統観	○単元終了時の子供の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）
(3)児童（生徒）の実態	○単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）
(4)指導上の留意事項	○本単元で働かせる見方・考え方
３ 単元の目標	○指導計画と評価計画
４ 単元の評価規準	２　単元における系統及び児童（生徒）の実態
５ 指導計画及び評価計画	○学習指導要領における該当箇所
６ 本時の学習	○教材・題材の価値
(1)目標	○本単元における系統
(2)展開	○児童（生徒）の実態
	３　指導に当たっての留意点
	４　本時の学習
	(1) 目標
	(2) 展開

本推進プランで示す「学習構想案」は、これまでの学習指導案で示してきた項目・内容を含んでおり、内容面で大きく変わるものではありません。具体的に、これまでの一般的な学習指導案と比較してみると上の表のようになり、主な違いは次の2点です。

■項目・内容に関して、「大切にしていきたい３項目」を追加していること。
※教科等の特質及び単元の内容によって「単元を通した学習課題」の設定が難しい場合は、明記しないことなども考えられます。
■表記の順序に関して、単元構想の中心となる大切な項目を「１ 単元構想」としてまとめ、最初に明記していること。
※略案では「１ 単元構想」と「４ 本時の学習」で構成することもできます。

本推進プランで示す「学習構想案」はあくまで推奨モデルです。すべての項目・内容や形式、表記の順番等に従って書くというものではありません。各学校では、校内研究の内容と関連付けて研究を深め、「大切にしていきたい３項目」を取り入れた学校独自の「学習構想案」に取り組み、子供たちに育成を目指す資質・能力を育んでいきましょう。

※実際の学習構想案は、記入内容をより簡潔にまとめています。推進プラン冊子（Ｐ５１～５４）をご覧ください。

重点3　自分なりの問いを立て、探り、新たな問いへとつながる「探究的な学び」を展開しましょう

「総合的な学習の時間」の充実を！

「総合的な学習の時間」には、教科書がありません。だからこそ、各学校の創意工夫した特色ある学習活動が展開できます。

また、「総合的な学習の時間」を通して育成を目指す資質・能力の実現に向け、他教科等との関連を図りながら教育課程を編成、実施、評価し、改善を図っていくことは、カリキュラム・マネジメントの側面とも深く関わっています。

まずは、各学校では、育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラムを教師が協力して作成することが、第一歩です。そして、その計画に基づき実践を行い、気付きや修正点などを次年度に引き継いでいきましょう。

あなたの学校で「総合的な学習の時間」に、こんな声が聞こえてきたら、総合的な学習の時間が充実している証拠です。

職員室で

来週の「総合的な学習の時間」では、～について、子供たちが集めた情報を整理・分析する時間をとりましょう。

各教室で

前回集めた情報を、同じ内容で仲間分けして整理してみよう。

※全体計画作成のポイントや具体的な例については、推進プラン冊子（P５７～６２）をご覧ください。

重点4　安心と信頼にあふれ、高め合う学級をつくりましょう

学級経営の充実を！

学級経営のノウハウ等は、これまでも本県の先輩教師等から脈々と受け継がれてきました。ノウハウ等の根底には、必ず、教師の本質的な姿勢や考え方があります。

そこで、今回、充実した学級経営を行っている教師が意識して実践していることや、無意識に心がけていることは何かについて分析し整理しました。

その上で、「くまもとの教職員像～『認め、ほめ、励まし、伸ばす』くまもとの教職員～」の教育行動指標や「子供の居場所づくり推進テーブル」を基に、学級経営における「熊本の教師の心がけ１０か条」を示しています。

この１０か条を参考に、自分自身の学級経営を見つめ直しましょう。そして、安心と信頼にあふれた高め合う学級づくりを進めましょう。

熊本の教師の心がけ10か条

視点1　児童生徒同士のつながり

1. まずはオープンマインド
2. みんなちがって、みんないい
3. 授業は全員参加・全員活躍
4. ハードルはチャンス

視点2　教職員と児童生徒のつながり

5. 子供の「よさ」を見付ける
6. 自ら示す「生き方モデル」
7. 評価はタイムリーに

視点3　組織体としての教職員同士のつながり

8. 学校は組織体
9. 風通しのよい職場

視点4　学校と家庭、地域・関係機関のつながり

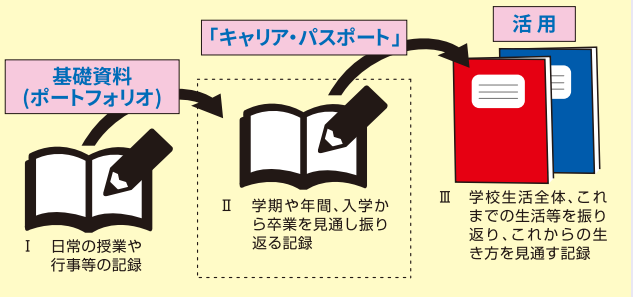
10. 保護者・地域は子育てのパートナー

Column　新学習指導要領から①　～主体的に学びに向かう力を育むキャリア教育の充実～

「なぜ学ぶのか。」「この学びは将来何の役に立つのか。」という子供たちの問いの答えは、キャリア教育にあります。学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けるというキャリア教育のねらいは、まさに、「学ぶ意味」を問いながら「能動的に学び続ける力」を身に付けるという「熊本の学び」の理念と相通じるものです。

各学校では、特別活動の学級活動を要としながら、学校の教育活動全体で行っていきましょう。

活動記録を蓄積する教材等（「キャリア・パスポート」）の活用を！



自らの学びを知り、次の学びに向かう熊本の子供たちに！

～子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立～

重点1　子供たちの課題克服に向けた教師の授業（単元）デザインにつなげましょう

学校総体で効果的な活用を！

令和元年度から新たな形でスタートした県学力・学習状況調査は、より信頼性を高めるため、民間のノウハウを活用し、調査結果を客観的な根拠資料として提供しています。

また、質問紙調査を充実させたことにより、子供たちの学習状況を学習習慣や生活習慣との相関から、詳細に捉えることができます。

実施後に提供される資料から、教師は子供たちの課題解決のために「何を学ぶとよいか」に加え、「どのように学ぶとよいか」まで指導することが可能となります。

学校総体で、本調査で見られた課題等を分析し、系統的・継続的な指導によって改善を図っていきましょう。

各学校、学年、学級、個人の学習状況の分析

各設問、総合力、質問紙との相関等の分析

↓

子供たちのニーズと教師の願いを
実現する授業のデザイン

学校全体で活用

学級で活用

校内研修・学年・教科で活用

重点2　子供たちが自らの学びをデザインできるようにしましょう

一人一人の学びに応じた活用を！

すべての子供たちが、自分の学びを見つめ、振り返ることができるよう、以下のように個人票を充実しています。

- ○教科別の結果が一覧できる
- ○学習のアドバイスが示される
- ○学習習慣や生活習慣からの課題が分かる など

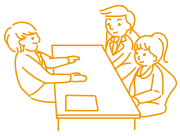
具体的な問題内容での結果とそれに応じた学習のアドバイスが分かることにより、自分が努力すべきことが明確になります。また、質問紙調査の充実により、学習と生活の様子との関連が明らかになり、学校生活だけでなく家庭生活も含め、学習や生活習慣の改善を目指すことができます。

個人票を活用し、教育相談を行ったり、家庭との連携を図ったりするなどして、一人一人の学びの充実を図りましょう。

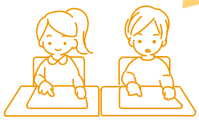
【自分の学びが見える個人票】
学習状況の傾向、学び方、生活習慣など

↓

自分の学びを見つめ、
これからの学びを子供たちがデザイン



【面談の実施】
・個人票の活用
・家庭との連携



【学習の見直し】
・Web上のプリント
・家庭学習の充実

【生活の見直し】
・読書の習慣化
・家庭学習時間の改善

Column 新学習指導要領から②　～グローバル社会を豊かにたくましく生きていく力を育む英語教育の充実～

グローバル化の急速な進展の中、外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができる能力は、子供たちが将来どのような職業に就くとしても、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定されます。

本県では、「自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りをもち、英語で発信することができる児童生徒」の育成を目指し、「英語教育日本一」の実現に向けた取組を進め、これからのグローバルな社会を子供たちが豊かにたくましく生きていくための教育を推進していきます。

「英語教育日本一」の実現に向けて！

1. 日常の英語授業の充実
2. 子供たちの英検等への積極的な挑戦の支援
3. 異文化理解・異文化交流活動の促進
4. 郷土を愛し、郷土に誇りをもつ心の醸成

自ら計画を立てて、自ら学ぶ熊本の子供たちに！

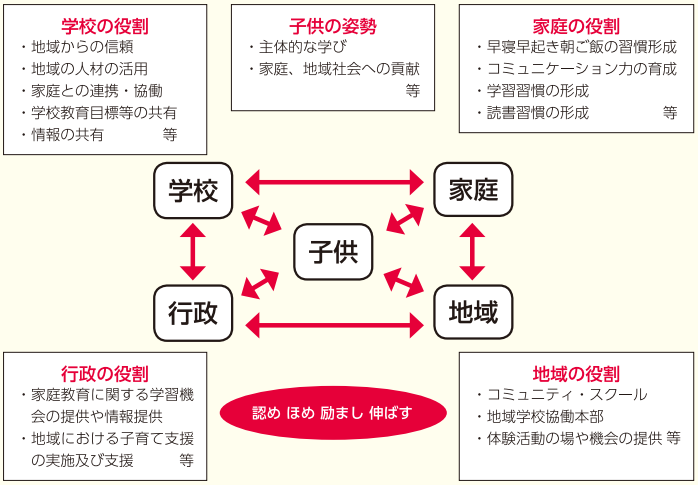
～家庭と連携を図りながら、子供たちの学習習慣形成を促す取組の推進～

重点1　学習習慣形成の素地となる環境づくりをしましょう

生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するために！

生涯にわたって自ら学ぶ子供を育成するためには、幼児期からの様々な経験や人との関わりを通して、「認められる」「ほめられる」などの経験を多く積み重ね、自己肯定感を高めていくことが大切です。また、小学校の早い段階で学習習慣を確立することは、その後の生涯学習を見据えた主体的な学習者の育成の視点からも極めて重要です。

そこで、五者が連携し１５年間を見通して、それぞれの段階で役割に応じた関わりを行っていく必要があります。子供を中心に据え、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」環境づくりに努めましょう。その際、本県で推進しているコミュニティ・スクールや地域学校協働本部と連携・協働し、取組をさらに充実させましょう。



重点2　家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習を目指しましょう

自ら計画を立てて学習できる子供を育成するために！

子供自身が、自分で計画を立て、決まった時刻に、もしくは一定の時間、家庭学習に取り組ませることで、習慣化できます。そこで、子供自身ができることから取り組ませ、自信をもたせる計画を立てさせましょう。

一方で、家庭学習に取り組みたくても何をすればいいか分からなかったり、目的意識がなくやる気がわかなかったりする子供も少なくありません。子供たちに、「家庭ではどのようなことをすればいいか」を具体的に分かりやすく示すことが大切です。本推進プランに掲載している家庭学習のポイントやチェックリスト(例)などを活用して、家庭学習の取組を子供、学校、家庭で見直し、継続・充実させましょう。

※家庭学習のポイントやチェックリスト(例)には、子供編、学校編、家庭編があります。詳細は、推進プラン冊子（P93～96）をご覧ください。

～家庭学習のポイント（学校編）～

【授業と家庭学習をつなげよう】

○授業中に教師が、家庭学習につながる声かけをしたり、学習内容等を示したりすることも有効です。
○子供が、更なる問いを見つけられるような声かけをしましょう。
○学校で、その日の家庭学習の内容について計画を立てさせることも有効です。

【子供のやる気を引きだそう】

○個に応じた家庭学習を出しましょう。(課題克服プリントの活用等)
○子供たちが主体的に家庭学習に取り組むためには、「見届け」が必要です。がんばりを認めたり、次につながるアドバイスをしたりしましょう。

【家庭学習について教職員間で共通理解を図ろう】

○家庭学習の内容・量について共通理解を図りましょう。
○家庭学習をチームで見守り、コメント等を書きましょう。
○子供同士でお互いの家庭学習ノートを見合って学び合ったり、認め合ったりする機会を設けましょう。

※「熊本の学び推進プラン」関係は、熊本県教育委員会ホームページ(http://kyouiku.higo.ed.jp)から、【義務教育→熊本の学び】を参照してください。

＜問い合わせ先＞
熊本県教育庁教育指導局 義務教育課義務教育指導班
〒862－8609 熊本市中央区水前寺６丁目18－１
TEL：096－333－2688